

「ノスタルジー」は単なる過去への感傷ではありません。心理学研究によれば、懐かしい記憶は自己肯定感を高め、他者への共感力を増し、将来への希望を育む効果もあるそうです。過去の温かい感情によって現在の困難を乗り越えることができ、未来を前向きに想像するエネルギーにもなる。心の働きは奥深いものですね。

希望と苦悩の狭間で *Carp*

暦の上では立秋を迎えましたが、まだまだ暑さ厳しい日が続いています。そして今年もこの暑さが長引く傾向にあるようです。

夏を通しての暑さが身にこたえる時期ですので、夏バテや熱中症にはご注意ください。

さて、我らがカープ。

真夏の太陽が照り付ける8月、広島は赤く染まりカープファンの熱気がスタジアムを包んでいる…と言いたいところだが、ここ最近のマツスタは空席も目立ち、カープは苦しい戦いを強いられている。



序盤、中日戦では森下が魂の投球を見せ、7回無失点の快投で勝利を呼び込んだ。ファビアンは逆転3ランを放ち、まるで救世主のような存在感を示した。ベテラン菊池の守備も健在で、阪神戦では試合を決定づけるジャンピングキャッチを披露。松山のサヨナラヒットには、ベンチもスタンドも涙した。最近では中村の活躍も目覚ましい。

だが、輝きの裏には影がある。

7月以降、打撃陣は深刻な不振に陥っている。チーム打率は.242とリーグ3位ながら、本塁打数はわずか57本で最下位。特に1・2番の出塁率が低く、得点機会を生み出せない展開が続いている。四球の数も少なく、粘り強さに欠ける打線は、上位チームとの差を広げるばかりだ。

ベテラン勢の衰えも顕著だ。松山は引退勧告の可能性が囁かれ、曾澤も来季の構想から外れるかもしれない。若手の台頭が待たれるが、二軍で結果を残せない選手も多く、戦力外通告の候補としてケムナや宇草の名前が挙がっている。ポジションの競争力が低下していることも、チーム全体の活性化を妨げている。

新井監督の采配にも厳しい視線が向けられている。就任3年目で「2位→4位→5位」と順位を下げ続けており、ファンの間では「選手を見る目がないのでは」との声も。このまま失速すれば、監督交代の可能性も現実味を帯びてくる。柔軟な戦術と選手の適材適所が求められている。

それでも希望はあるのか… 8/20時点での成績は47勝57敗5分。順位は4位ながら、ファビアンや末包など新戦力の奮闘が光る。これから控える中日、巨人、ヤクルトとの連戦は、まさに“運命の分岐点”。改善点に取り組むことで、再び上位争いに食い込む可能性を秘めている。この夏、カープは奇跡を起こせるか。

頑張れカープ！！

エルフォルクはあなたを そしてカープを 全力応援致します！

裏面もご覧ください。